

これから書くことは、私がマラウイでの2年間の活動を終えてマラウイを出発してから、日本に到着するまでの一部始終です。マラウイ隊員の皆さんが、同じ過ちを繰り返すことの無いように願っています。

12月10日

なぜか我々二人はBT出発です。リロングウェ発の飛行機がこの週だけキャンセル。わけがわかりません。見送りに来てくれた皆さん、ホントにありがとう。中には朝イチでBT見送りのあとコーチに直行、昼にLLで見送りという強行スケジュールを決行してくれた奇様な方も。マジで感動しました。

飛行機に乗って2時間ほどでヨハネスに到着。気持ちが悪い。本気の都会酔いです。タクシーの中で一人悶えることしばらく JICA 手配の宿につきました。おしゃれな宿です。チェックインのあと、大使館へ。パスポート切り替えはスムーズに終わるも、気になるのは正面入り口の壁にある、巨大な菊の紋章。

夕食は村上所長邸にて。これはびっくり超豪邸です。家の中にはビリヤード台も有り。

今日のまとめ

- 飛行機の中では、やっぱり思い出にふける。半廃人。
- ・ヨハネスは大都会。僻地隊員は要注意。
- ・大使館のセキュリティはマラウイの空港よりも断然厳しい。
- ・昼飯はマクドナルドでしょう。文明の味がします。
- ・所長邸のごはんは当然うまい。
- ・ビーフジャーキーがうまい。店の場所は忘れた。

12月11日

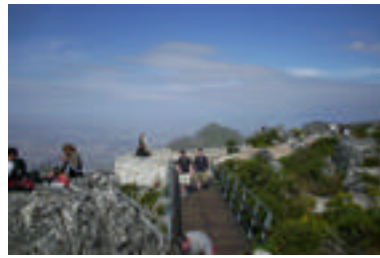
飛行機でケープタウンへ。さすがに観光地だけあってきれいです。でも、整いすぎていて、落ち着きません。二階建てバスに乗って市内観光もしたし、テーブルマウンテンにも上りましたが、感動が少なめ。僕はマラウイのほうが好きです。ビーチなども、胡散臭い感じです。

今日のまとめ

- ・宿はバックパッカーズ。楽しい。
- ・Long Street の脇道にある寿司屋のお姉さんは非っ常おぉーに可愛い。



テーブルマウンテン頂上から



テーブルマウンテン頂上



ビーチ

12月 12日

宿にチラシが置いてあった、ケープタウン一日観光ツアー。380ランド。植物園では葉っぱが緑色（マラウイでは見たことない！！）のバオバブが。プレートにはマラウイから持ってきたと書いてあるのですが、本当でしょうか？~~マラウイアンにお金を持たせると突然狂ってしまうように~~、このバオバブもあまりの恵まれた環境に、お狂いになられたようです。

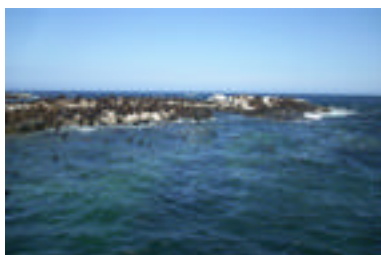
次は船に乗ってアザラシを見に行きました。うるさいです。臭いです。

そして待望のペンギンなのですが、これまた整備されすぎていて近くまで行くことができませんでした。

喜望峰はケーブルカーがあるのですが、歩いて登ってみました。きれいでした。

今日のまとめ

- ・アザラシ島行きの船着場には、ポストオフィス前もびっくりの数のベンダーが。
- ・例の寿司屋はオヤジが感じ悪すぎ。ウェイトレスかわいいから良いけど。



アザラシ島



ペンギン



喜望峰

12月 13日

飛行機でアムステルダムに向かう

今日のまとめ

- ・ない

12月 14日

早朝、アムステルダムに到着。寒い。寒すぎる。さっさと空港から町へ移動しようと思ったのですが、そこはさすがに俺様。なんと地下鉄が止まっています。しかも、まさに乗りたかった路線だけとの事。寒い。その辺にいた若い兄ちゃんが、迂回ルートなら大丈夫というので、別の路線に乗って乗り換えの駅まで行くと はい、しっかり止まっています。寒い。結局その駅からバスで市内まで行きました。朝飯はマクドナルドで食べたのですが、その店は入り口のドアがありませんでした。寒すぎます。

道を歩いていると、SexMusium なる建物を見つけました。これは入らないわけには行きません。客は思った以上に入っていました。でも、あんまりエロくないです。

バックパッカーズは旅の若者で大人気。ドアを開けたとたんに素敵な香りが。さすがアムス。でもアホばかりです。寝室で吸うな！！注意書きにも書いてあるだろ！！と、英語で切れたかったのですが、語彙と度胸が足りませんでした。僕はチキン野郎です。

夜は噂の飾り窓を物色。窓は星の数ほどもあるのですが、きれいなおネエちゃんめったにいません。ストリップショーを見て帰りました。これはマジでつまらないので行かないほうがいいです。日本のストリップの方が、何倍も楽しいです。

今日のまとめ

- ・アムステルダムは寒いです。
- ・町はきれいなのですが、寒いです。
- ・ゴッホ美術館はすごいです。おすすめです。
- ・アフリカ大陸を脱出すると、ビリヤードの玉が一回り大きくなります。
- ・アムスでは、バックパッカーズに泊まらないようにしましょう。
- ・アムスでは、強い意志をもちましょう。

12月 15日

この町へ来たからにはやっぱりマリファナでしょう。なんと言っても世界で唯一大麻が合法的なこの町、猫も杓子もマリファナ三昧。コーヒーショップとは名ばかりの、葉っぱを売る店は所狭しと乱立し、道端には非合法ドラッグを売るプッシャーさんも普通にいます。何でも、試す前から頭ごなしにこれはダメと決め付けるのはよくありません。やっぱり自分で試した上での意見でないと説得力ないもんね。というわけで、無為な一日を過ごしてしまいました。この町にいと、お金と時間があぶくのように消えていきます。ジャンキー予備軍たちの中に入って、一日ラリっていました。クリームパンがとてもおいしかったです。スニッカーズも美味しい。何を食べても美味しい。

今日のまとめ (興味のある方へ)

- ・アムスは当然のことながら、高いです。
- ・どこの CoffeShop でも値段は大体いっしょです。
- ・グラインダーという便利アイテム (粉末状にするキカイ) が売られています。



アムスの思い出

12月16日

世界最悪の都市、アムステルダムをやっと離れる事ができました。飛行機でニューヨークへ。さて、入国拒否です。理由は入国カードの宿泊予定地を空欄のまま提出したため。カードも持っていないプータローの俺たちが、アメリカの国外 (しかもアフリカ) からホテルの予約が取れるわけないです！！

オヤチ 「泊まる場所がない奴は入れることはできんな」

俺 「空港の案内所で予約するつもりなんですけど」

オヤチ 「今、このカードに宿泊地を書かなきゃだめだ」

俺 「じゃあ、どうしたらいいですか？ (涙目)」

オヤチ 「どこかに泊まる場所を見つけなさい」

俺 「ゲートのこちら側に電話ありますか？ (まだ入国ゲートの手前)」

オヤチ 「ないね」

俺 「あちら側の電話 (見えてる) 使わせてください。戻ってきますから」

オヤチ 「ダメだね」

俺 「僕はどうすればいいんでしょう？ (半泣き)」

オヤチ 「知らんね」

俺 「……」

入国できずに泣きべそをかいていると、次の飛行機が到着。ほとんどの客が無事入国し、書類不備などで何人か残っていた、見るからに怪しげな人たちすらも2回目のトライで入っていきます。そして僕だけが残る……

ずいぶん先に入国した相方もどこへ行ったかわからないし、連絡のとりようもない。途方に暮れていたところに、救世主が降臨しました。空港職員のちょっと小柄な黒人さんです。適当な住所をでっち上げ、通してくれそうなゲートを教えてくれました。

ちなみに○田君は全く同じように入国カードを記入したところ、入国管理のおぢさんが、適当に宿泊地を書いてくれたそうです。やっぱり僕だけ……

## 今日のまとめ

・自分の運勢はしっかり計算に入れて、計画を立てましょう。

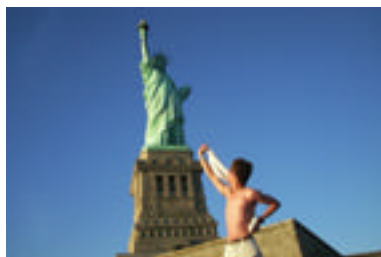
12月 17日

忙しい一日でした。まず、東京三菱銀行へ行って口座を解約。そして遅い朝食はやっぱりマクド。やっぱり本場はいいです。エンパイアステートビル、自由の女神、ツインタワー跡地などを回り、夜はブロードウェイで“オペラ座の怪人”を見る。“ライオンキング”が見たかったのですが、やっぱり当日券は取れませんでした。

## 今日のまとめ

・窓口で直接口座解約すると、その場で現金がもらえます。所要時間30分。

・アメリカは、カードがないと不便で仕方ありません。公衆電話すらも、要カード。



自由の女神と乾布摩擦



ツインタワー跡地(地下鉄工事中)

12月 18日

ニューヨークを出発。タクシー代をケチって、地下鉄で空港へ向かったところ、危うく乗り遅れそうになりました。アメリカは国内線でも荷物チェックがとても厳しいです。僕の場合はまずチェックインカウンターのすぐ後で、靴を脱ぎ、荷物を全てあけられ、拳銃の果てにかばんの底に入っていたつまめ切りを、これは何だ？と力づくで破壊されました。そして彼らはまるで指紋採取でもするかのように、ピンセットでつかんだ脱脂綿で服をチェック。何をするのかと思ったら、どうも爆薬チェックらしい・・・ボクってそんなに怪しいデスカ？ちなみに相方は比較的スムーズにチェックを通っていました。さらに、飛行機の搭乗口でも靴を脱がされ・・・(以下繰り返し)

さて、ラスベガスはマクキャラン空港に到着すると、とりあえずスロットマシンが並んでいる！！よく見ると、空港内の人々が時間をつぶすと思われるあらゆるところに。しかも基本的に高レートです。とりあえず、荷物の受け取りの間に軽く30ドルほど、いけました。銀行でキャッシュをゲットしたばかりなので、金銭感覚が狂っているようです。

気を取り直して、宿探し。ラッキーなことに、泊まりたかったところが空いていました。一部屋平日40ドル、週末60ドルでした。

## 今日のまとめ

就航再開した コンコルトがいました。カッチョイイです。



泊まったホテル

12月 19日

ラスベガスのホテルはすごいです。構造はどこのホテルも基本的にいっしょで、入るとまずカジノ、チェックインのフロントが見えるのはその次です。飯を食うのにも、外へ出るにもカジノを通らなければいけないのです。非常に危険です。さらに、ホテルの外へ出て何もない上に、隣のホテルまで行ってもあるのはどうせカジノだけなので、結局は出不精になります。危険です。

この日はとりあえず、スロットマシンで一攫千金を狙います。なにせクルーザーを買ったり、Misale を Natsume に変えたりと、やるべき事、必要なお金がたくさんなのです。挑戦したのは25¢マシン。3枚がけでないとジャックポットの権利がないので1ゲーム75¢です。日本のスロットマシンの1.4倍くらいのレートです。これが、とてつもなく退屈です。リールを自分で止めることができないので、回して待つ、それだけ。しかも一つ目のリールでハズレが確定してしまうことが多いので、ますますつまらなさが加速します。こんなものにお金と時間をつぎ込んでいるアメリカ人の皆さんの気が知れません。

かなりお金を使ったところでやっと気が付きました。ボクが、こんな運100%のゲームで勝てるわけがないじゃないか。大体、中身のわからない機械に挑むなんて金を捨てるようなもんだ。そしてスロットからはすっぱり足を洗いました。

夕食後、ルーレットのテーブルへ。赤黒一点勝負を繰り返し、気が付いたときには3000ドルほど勝っていました。疲れたので休憩。

興奮して眠れないので、3時ごろから隣のホテルのルーレットへ。この時間になると高レートのテーブルしかディーラーさんがいません。別にいいけど。金持ちだし。やっぱり赤黒勝負で、一時は8000ドル勝ちまで行くも、1回2000ドルの勝負を2発ほど外したりして、トータルで4000ドル勝ちでした。1枚100ドルの黒チップが目の前に詰まれているのですが、お金の実感が全くありません。1クワチャコインで遊んでいる感じです。怖いので速攻で金庫に預けました。

## 今日のまとめ

・グランドキャニオン等へ行くのなら、先に予約して日程を確定させましょう。

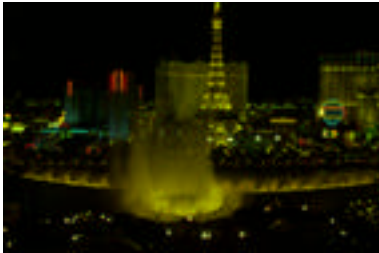


12月20日

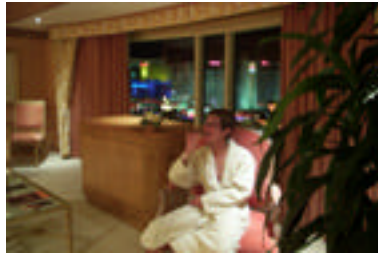
成金のボクたちは泊まっていた部屋をキープしつつ、界限でいちばん高級なホテルに向かいました。スイートで豪遊。相方が男なのが非常に残念。

今日のまとめ

- ・スイートは異性とがオススメ。
- ・ベラジオというホテルのO(オー)というショーは最高です。



部屋からの眺め



プチ成金



相棒

12月21日

連日激しく遊んでいたもので、俺様担当のホストがつきました。いろいろ便宜を図ってくれます。今回は、部屋代がタダになり、夕食も毎晩80ドルくらいタダで食べました。で、この日はダウントウンへ行きました。アムスでの反省を全く活かすことなく、トップレスバーに入ってみました。結論。何か盛られました。2ドリンク制だったのでビールと水を頼んだのですが、ふたつともキャップが空いています。ビールはともかく、ペットボトルのふたが開いてるっておかしくないデスカ？オッパイ丸出しのオネェチャンが登り棒に絡みついてまわっていますが、例によってあまりにもつまらないので、さっさとホテルへ帰りました。帰りのバスの中で眠い眠い。そしてホテルへ着いても頭の中がエロいエロい。いつも以上にエロが渦巻いていました。相方も同じ症状。もうちょっと長い時間あの店にいたらヤバかったか？

今日のまとめ

- ・薬ってすごいです。

12月22日

やっとラスベガスの腐りきった生活からおさらばです。ホテルから空港まで最後の豪遊をして、任国外旅行終了。成金だったので、飛行機をビジネスに変えようとしたのですが、+2000ドルということで断念。



帰りのタクシー



車内

最後に

2週間分書くのってしんどいですね。適当でゴメンナサイ。おわり。